

2018年度

事業報告

自 2018 年 4 月 1 日
至 2019 年 3 月 31 日

公益財団法人 日本財団パラリンピックサポートセンター

目 次

I	法人の概況	
1.	設立年月日	1
2.	定款に定める目的	1
3.	定款に定める事業内容	1
4.	所在地	1
5.	役員に関する事項	1
6.	評議員に関する事項	2
II	役員会等実施状況	
1.	理事会	3
2.	評議員会	4
III	事業の実施状況	
【1】	パラリンピック競技団体の振興体制整備	5
1.	共同オフィスの提供	5
2.	パラリンピック競技団体組織運営・管理基盤支援助成金の提供	5
3.	大会観戦拡大	5
4.	キャパシティビルディングの支援	6
5.	2021年以降の自立モデルの構築	6
6.	競技普及環境整備	6
【2】	アスリートが競技に集中するための環境整備	7
1.	パラアスリートの総合力向上	7
2.	パラスポーツ体育館建設	7
【3】	パラリンピックの普及・啓発	8
1.	パラリンピックムーブメント推進に向けた広報活動	8
2.	「パラ駅伝 in TOKYO」の開催	12
3.	「パラフェス 2018」の開催	13
4.	パラスポーツ体験型イベントの実施	14
5.	パラリンピック教育の実施(あすチャレ！スクール)	16
6.	パラリンピック教育事業開発(I'mPOSSIBLE 日本版)	17
7.	法人向けパラスポーツ体験プログラムの実施(あすチャレ！運動会)	17
【4】	パラリンピックボランティアの推進	20
1.	パラリンピックボランティアの育成推進	20
2.	障がい者コミュニケーションセミナーの実施(あすチャレ！ Academy、あすチャレ！ジュニアアカデミー)	20

【5】	パラリンピックの学術研究	21
	1. 調査研究活動	21
	2. 普及啓発活動	22
【6】	パラスポーツの国際支援	23
2018年度事業報告 附属明細書		24

2018年度 事業報告

I 法人の概況

1. 設立年月日

2015年 5月 15日

2. 定款に定める目的

当財団は、障がいの有無に関わらず、誰もがスポーツを通じて幸福で豊かな生活を営める共生社会の実現を目指し、パラリンピック大会を始めとする障がい者スポーツ環境の発展のための諸課題の把握やその解決に向けた支援を行うことにより、様々な関係者の連帯に基づく国民の心身の健全な発展と明るく豊かな国民生活の形成に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

- (1) パラリンピックの調査研究及び普及啓発
- (2) パラリンピック競技団体の振興体制整備
- (3) パラリンピック開催に向けたボランティアの育成
- (4) 障がい者スポーツ環境整備への支援
- (5) 障がい者スポーツ振興に関する国際支援
- (6) 障がい者の文化・芸術活動支援
- (7) その他当財団の目的を達成するために必要な事業

4. 所在地

東京都港区赤坂1丁目2-2 日本財団ビル4階

5. 役員に関する事項

役職名	氏名	略歴
会長	山脇 康	公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会委員長
理事長	小倉 和夫	元・東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会評議会 事務総長
常務理事	小澤 直	一般財団法人日本財団ボランティアサポートセンター 常務理事
監事	安樂 恒樹	税理士

6. 評議員に関する事項

氏名	現職	任期開始	任期満了
安倍 昭恵	公益財団法人社会貢献支援財団 会長	2015年5月15日	2019年の定時評議員会の終結時まで
鳥原 光憲	公益財団法人日本障がい者スポーツ 協会日本パラリンピック委員会 会長	〃	〃
竹田 恆和	公益財団法人日本オリンピック委員会 会長	〃	〃
河合 純一	一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 会長	〃	〃
尾形 武寿	公益財団法人日本財団 理事長	〃	〃

II 役員会等実施状況

1. 理事会

①第 25 回理事会

- ア. 開催日時 : 2018 年 5 月 29 日 (火) 午後 2 時
- イ. 開催場所 : 日本財団ビル 4 階会議室
- ウ. 決議事項 :
 - 第 1 号議案 2017 年度事業報告並びに決算書類の承認について
 - 第 2 号議案 育児・介護休業等に関する規則の改訂について
 - 第 3 号議案 顧問の再任、選解任について

②第 26 回理事会

- ア. 開催日時 : 2018 年 6 月 1 日 (金) 書面決議
- イ. 提案事項 : 決議の省略方式による議案の承認
- ウ. 決議事項 :
 - 評議員会の目的である事項の提案について

③第 27 回理事会

- ア. 開催日時 : 2018 年 6 月 20 日 (水) 午後 2 時
- イ. 開催場所 : 日本財団ビル 4 階会議室
- ウ. 決議事項 :
 - 第 1 号議案 2018 年度パラリンピック競技団体組織運営・管理基盤支援助成金交付の決定について
 - 第 2 号議案 「雨上がりのステップ支援金(仮称)」交付の決定について
 - 第 3 号議案 顧問の再任、選解任について

④第 28 回理事会

- ア. 開催日時 : 2018 年 9 月 28 日 (金) 午前 9 時 30 分
- イ. 開催場所 : 日本財団ビル 4 階会議室
- ウ. 決議事項 :
 - 第 1 号議案 日本財団への助成金交付申請にかかる 2019 年度事業計画書および予算の承認について
 - 第 2 号議案 2018 年度パラリンピック競技団体組織運営・管理基盤支援助成金(追加申請)交付の決定について
 - 第 3 号議案 職員就業規則の改訂について
 - 第 4 号議案 顧問の再任、選解任について

エ. 報告事項 :

報告事項 1 2017 年度パラリンピック競技団体組織運営・管理基盤支援助成金の
監査結果について

報告事項 2 代表理事及び業務執行理事の職務の執行状況について

⑤第 29 回理事会

ア. 開催日時 : 2019 年 1 月 21 日 (月) 午後 1 時 30 分

イ. 開催場所 : 日本財団ビル 4 階会議室

ウ. 決議事項 :

第 1 号議案 2019 年度パラリンピック競技団体組織運営・管理基盤支援助成金の
募集の承認について

第 2 号議案 顧問の選任について

⑥第 30 回理事会

ア. 開催日時 : 2019 年 3 月 20 日 (水) 午前 2 時

イ. 開催場所 : 日本財団ビル 4 階会議室

ウ. 決議事項 :

第 1 号議案 2019 年度事業計画書、収支予算書及び資金調達及び設備投資
の見込みについての承認について

第 2 号議案 2019 年度パラリンピック競技団体組織運営・管理基盤支援助成金
交付の決定について

第 3 号議案 顧問の選解任について

エ. 報告事項 :

報告事項 1 代表理事及び業務執行理事の職務の執行状況について

2. 評議員会

①第 7 回評議員会

ア. 開催日時 : 2018 年 6 月 27 日 (水)

イ. 開催場所 : 日本財団ビル 4 階会議室

ウ. 決議事項 :

第 1 号議案 公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンター
2017 年度決算書類 承認の件

エ. 報告事項 :

報告事項 1 公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンター
2017 年度事業報告の件

Ⅲ 事業の実施状況

【1】パラリンピック競技団体の振興体制整備

パラリンピック競技団体の組織基盤強化を目的に、以下の事業を実施した。

1. 共同オフィスの提供

2015年11月より共同オフィスを開所し、執務環境の支援を行った。

・オフィス概要

住所:東京都港区赤坂1丁目2-2 日本財団ビル4階

面積:フロア約1,180㎡、オフィス約800㎡

・入居状況 ※2019年3月31日現在

パラリンピック競技団体(入居28団体)

日本パラリンピック委員会、日本パラリンピアンズ協会

・オフィス機能

各団体執務スペース、会議室(2室)、モニター、ミーティングテーブル、図書スペース、イベントステージ、複合機、ベンディングマシン、多目的トイレ(2室)他

2. パラリンピック競技団体組織運営・管理基盤支援助成金の提供

組織基盤の強化を目的に事務局員雇用やガバナンス整備等に充当する助成金を提供した。

・対象期間:2018年4月1日～2019年3月31日

・対象団体:リオ・ピョンチャン・東京大会対象競技の競技団体(全31団体)

・対象事業及び上限額:

<赤コース>

人的資源の確保に関する事業 660万円

その他組織運営・管理基盤及び活動の充実に係る事業 上限なし

<青コース>

人的資源の確保に関する事業 A申請:月額35万円 B申請:月額20万円

その他組織運営・管理基盤及び活動の充実に係る事業 2,000万円

<緑コース>

人的資源の確保に関する事業 A申請:月額35万円 B申請:月額20万円

その他組織運営・管理基盤及び活動の充実に係る事業 1,000万円

・助成実績:29団体、採択額448,490,000円/支給額433,990,000円

3. 大会観戦拡大

競技団体の主催する大会への観戦者を増やすため、以下の大会にスペシャルサポーターがゲスト出演を行った。

大会名:三井不動産ウィルチェアラグビー日本選手権大会<第20回記念大会>

日程:2018年12月14日・15日・16日(ゲスト出演は16日のみ)

場所:千葉ポートアリーナ(千葉県千葉市中央区問屋町1-20)

出演者:パラサポ スペシャルサポーター 稲垣吾郎氏

内容:決勝戦開始前のデモンストレーションへの出演、表彰式プレゼンター

来場者数:3日間5,750名(16日のみ2,300名)

メディア露出(広告換算額):事前34,499,333円(TV1、WEB70)

大会後336,873,295円(TV12、新聞76、WEB240)

また、スペシャルサポーターである稲垣吾郎氏・草薨剛氏・香取慎吾氏によるパラスポーツ応援チャリティーソング『雨あがりのステップ』(「新しい地図」)の売上総額23,006,214円の寄付を受け、その内15,160,000円を競技団体の大会観戦拡大のために以下の通り支援した。

国際大会支援 1,240,000円×9団体=11,160,000円

国内大会支援 500,000円×8団体=4,000,000円

4. キャパシティビルディングの支援

上記1. 2.と併せて、団体の自立化に向け以下の支援を行った。

・バックオフィスサポート:強化費の会計処理、国際業務、法務、税務

・学生インターン:大学スポーツ新聞部から競技団体へ広報インターンを派遣

(9競技団体に対し、7大学から48名の学生を派遣。計12記事掲載。)

5. 2021年度以降の自立モデルの構築

支援期間終了の2021年度までの折り返し地点となる2018年度において、各競技団体の将来的な自立へ向けた状況確認を行ったところ、全30団体の内、18団体が自立見込み、12団体が引き続きの支援を希望していた。そこで、引き続き各団体の基盤強化を行いつつも、自立が難しい団体の持続的な運営を可能にするシェアードサービスの設計に着手した。5団体の業務量調査を行い、業務の種類・時間を精査したところ、10団体分の事務局業務を行うためには8名体制、オフィス等のインフラも含めて年間6000万円程の予算がかかることが判明した。2019年度は、このシェアードサービスの詳細メニューの設計、段階的導入、将来的な資金調達方法の検討を進めていく。

6. 競技普及環境整備

パラスポーツ競技者の裾野拡大を目的に、向いている競技の診断とチーム検索機能を備えたWEBサイト「マイパラ! Find My Paraspport」を2017年4月にオープンした。

2019年3月31日現在で競技数41、チーム数433が登録されており、パラスポーツの情

報インフラとしての活用が進んでいる。同時に、地域におけるパラスポーツ普及の核となる拠点を全国に展開するべく、モデルとなり得る地域を調査し、長野県に設定した。将来的には、パラスポーツをやりたい人が身近に取り組める環境が広がるよう、情報インフラの「マイパラ！ Find My Parasport」と併せて事業展開を行う。

【2】アスリートが競技に集中するための環境整備

1. パラアスリートの総合力向上

アクセンチュア株式会社の協力を得て、パラアスリート向けのスピーチトレーニングプログラムを開発し、2017年10月より「パラスポーツメッセンジャー育成プログラム」として受講申込を開始した。第1期5名、第2期5名、第3期8名、第4期10名、第5期11名、第6期7名の受講生を受け付け、プロタイプ7名を含め計53名が受講、うち37名がパラスポーツメッセンジャー認定となった。上位のA級、S級のプログラムも開始しA1期4名、A2期4名、A3期3名の受講生を受け付け、うち1名がA級認定となった。2018年度は、認定者の活発な活動を展開するためWEBサイトを公開し、55件の依頼、うち37件が実施決定となり、総聴衆数は1万人を超えた。今後はさらなるパラスポーツメッセンジャーの育成とパイロット展開を経て、上位のS級認定の正式プログラムのオープンを目指す。

2. パラスポーツ体育館建設

パラスポーツの練習環境の整備と普及促進を目的としたパラスポーツ専用体育館(名称：日本財団パラアリーナ)を船の科学館敷地内に建設、2018年6月1日にオープンした。同日には竣工式を執り行い、日本財団 笹川陽平会長、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 森喜朗会長、日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会 鳥原光憲会長、東京都知事 小池百合子氏、日本パラ・パワーリフティング連盟 吉田進理 理事長、パラアスリートが出席した。

利用競技は、車いすバスケットボール・車いすラグビー・ボッチャ・ゴールボール・ブラインドサッカー・シッティングバレーボール・車いすフェンシング・卓球・テコンドー・パワーリフティングなど約10競技に上り、2019年3月末までの10か月間で延べ6817人の利用者を数えた。その他、普及イベントでも延べ2377人が利用した。ユニバーサルデザインとクリエイティブデザインを追求した施設への高い注目度から、全国の自治体を中心に延べ701人が見学に訪れた。

【3】パラリンピックの普及・啓発

1. パラリンピックムーブメント推進に向けた広報活動

「パラリンピックムーブメントの推進を通してインクルーシブな社会を実現する」組織として、パラリンピック、パラスポーツの興味喚起を図ると共に、パラサポの認知拡大に向けた各事業のコンテンツ制作、プロモーション施策を行った。

a. 公式 WEB サイト(<https://www.parasapo.tokyo>)

「パラリンピック、パラスポーツの総合サイト」としてリニューアルし、WEB メディア力を強化する運営を行う。

- ・パラリンピック競技の基本情報(競技説明、注目選手紹介、2018 年度の大会・イベント日程)の充実。

- ・パラスポーツの大会取材、選手のインタビュー記事を増量。

- ・新規層の接点創出に向け、ダイバーシティ&インクルージョンをテーマにしたコラムを増量。

- ・パラサポの各事業、イベント、プログラムの開催レポートの質、量を強化し、パラサポとしてのブランドメッセージを発信。

- ・ユーザーとのエンゲージメントを強化するために、ユーザービリティ向上の改修(UI/UX/CMS)、SEO 対策(検索エンジンでのランクイン改善)。

- ・新規層獲得とパラサポの認知拡大に向けた WEB(記事) 広告の実施。

※月間ユニークユーザー数: 平均 7.3 万人

月間 PV 数: 平均 23.3 万回

b. 東京 2020 パラリンピック特設サイト「応援-OEN」を 2018 年 8 月 25 日に開設

東京 2020 パラリンピックを目指す選手と私たちをつなぐ特設サイトを開設し、選手を身近に感じるグラフィックや SNS 連携施策、イベントでのブース出展を通じて、パラリンピック新規層との接点創出と応援のきっかけづくりを図った。

- ・東京 2020 パラリンピック競技の注目選手を撮影するフォトプロジェクトの実施により、OEN サイトへの写真掲載、公式 SNS やイベントで活用(6 競技 6 組の選手を撮影)。

- ・選手の SNS 投稿(Twitter、Instagram)を OEN サイトに掲載する「#oen2020」連携を実施(#oen2020 の投稿数 2,295 件、投稿への総いいね数 858,393 件)。

- ・パラリンピックの起源や価値、東京 2020 パラリンピックの会場、競技、注目選手等を分かりやすく紹介。

- ・パラスポーツ応援チャリティーソング「雨あがりのステップ」支援金対象大会、パラサポ主催のイベント、ボランティアのオリエンテーション会場等で、東京 2020 パラリンピックへの応援メッセージの寄せ書きを集める「OEN フラッグ」と記念写真を撮影できる「OEN フォトブース」を出展し、「#oen2020」付きの SNS 投稿を呼びかけるインテグレートドキャンペーンを

展開(OEN フラッグへの寄せ書き人数:約 2 万人、寄せ書きフラッグ数:約 200 枚)。

- c. アーンドメディア(公式 SNS、YouTube、LINE、キュレーションメディア連携)
パラリンピック、パラスポーツ、パラサポへの共感、拡散に向けて、フォロワー数の増加、エンゲージメント率の向上、新規層開拓のための SNS(Instagram)を開設。
- 公式 Facebook:フォロワー数 41,343 人/250 名増(2018 年 4 月比較)
年間リーチ人数 約 360 万人(ユニークユーザー数)
<https://www.facebook.com/parasapo/>
 - 公式 Twitter:フォロワー数 17,286 人/1.4 倍(2018 年 4 月比較)
年間リーチ人数 約 4,500 万人(ユニークユーザー数)
<https://twitter.com/parasapo>
 - 公式 Instagram:フォロワー数 10,835 人/2018 年 7 月開設
<https://www.instagram.com/parasapo/>
 - oen2020 Twitter:フォロワー数 3,528 人/2018 年 10 月開設
<https://twitter.com/oen2020>
 - 公式 YouTube:フォロワー数 1,947 人
動画投稿本数 49 本/総再生回数 35,000 回
<https://www.youtube.com/channel/UCHC3Ga8Uvn-6wT6fgoeENw/videos>
 - LINE:フォロワー数 576 人/2018 年 12 月開設
※アカウント名:日本財団パラリンピックサポートセンター
 - スポーツナビ:動画投稿本数 31 本(事業系プロモーション動画 12 本)
総再生回数 483 万回(事業系プロモーション動画で計 420 万回)
<https://sports.yahoo.co.jp/video>
 - Yahoo! JAPAN「みんなの 2020」:メディア連携(記事寄稿)
<https://minnano2020.yahoo.co.jp/>
 - スポーツ総合雑誌「Number」:WEB 記事連携(パラサポスペシャルサポーター出演記事の共同企画)
<https://number.bunshun.jp/list/magazine/number>
- d. 各事業のコンテンツ制作、プロモーション施策
- パラサポ PROJECT MOVIE:動画、SNS、イベント活用
 - 全国横断パラスポーツ運動会:WEB 記事、SNS、動画、OEN ブース
 - あすチャレ! 運動会 日本一決定戦:WEB 記事、SNS、動画
 - あすチャレ! 運動会:WEB 記事、SNS、動画
 - あすチャレ! School:WEB 記事、SNS、動画
 - ParaFes 2018:WEB 記事、SNS

- ・パラスポーツパーク in ParaFes 2018:WEB 記事、SNS、OEN ブース
- ・パラ駅伝 in 2019:WEB 記事、SNS、OEN ブース
- ・NST まつり 2018:WEB 記事、SNS、OEN ブース
- ・おもちゃショー(パラスポーツパーク):WEB 記事、SNS
- ・ツーリズム EXPO(パラスポーツパーク):WEB 記事、SNS
- ・パラリンピアン レッスン:WEB 記事、SNS、動画
- ・パラスポーツフェスタ in 軽井沢:WEB 記事、SNS、動画
- ・GO Journal 2 号 発刊記念トークショー:WEB 記事、SNS、動画
- ・スポーツコンプライアンス ラジオドラマ:動画、WEB 掲載

e. メディアリレーション・競技団体広報

1)メディアリレーションを基盤としたパラサポ事業、パラスポーツの露出拡大

- ・メディアセンター運用(51 社 289 名が登録)、地方局へのアプローチ(あすチャレ! スクール、あすチャレ! 運動会、パラスポーツパーク地方開催時)
- ・パラサポ主催会見/イベント開催:パラアリーナオープン、パラスポーツチャリティ応援ソング贈呈式時のメディア露出
- ・海外メディア対応(BBC 英、ボストン・グローブ米、ラ・トリビューン加)
- ・パラフェス(53 媒体 73 名)、パラ駅伝(56 媒体 132 名)時のメディア露出
- ・全国横断パラスポーツ運動会(スポーツ庁事業)時のメディア露出
- ・イベント、事業発表などリリース配信(69 配信)/PRTIMES 掲載(26 配信・950 転載サイト)
- ・媒体個別アプローチによるパラサポ事業に関する記事化、特集 TV 露出(東洋経済、日経新聞、NHK、テレビ朝日など)

2)競技団体等主催記者会見支援

- ・メディアセンター登録媒体宛に会見の取材案内、リリース等を配信(54 配信)
- ・競技団体記者会見実施の支援(車いすテニス、卓球、スキー連盟)
- ・競技大会時の広報支援(雨あがりのステップ寄付使用ウィルチェアーラグビー)
- ・「一般社団法人パラスポーツ推進ネットワーク」との連携による広報支援

f. 制作物

紙媒体:

- ・パラサポ事業およびパラスポーツの魅力を効果的に伝えるための子ども向けツール「パラサポ新聞(2018 年 7 月 4 号 | 13 万部、2019 年 2 月 5 号 | 16 万部)」
- あすチャレ! スクール、あすチャレ! Academy、パラフェス、パラ駅伝他で配布
- 朝日小学生新聞折込(4、5 号共に 7 万部)
- ※2020 東京大会スポンサー企業、自治体でのイベント時でも提供。

※WEB 版も公開

4号 <https://www.parasapo.tokyo/topics/8080>

5号 <https://www.parasapo.tokyo/topics/13042>

・興味や目的に合わせてパラサポのプログラム、WEB サービスを探せるツールとして「Next Action Guide」パンフレットを新規制作(10 万部)

g. 既存マスメディア(パラスポーツタイトル)への後援・連携

- ・ゲスト選手調整や SNS、WEB サイトでの紹介、パラサポメンバー出演など
- ・Numbers(文藝春秋)、慎吾とゆくパラロード(朝日新聞)、フジテレビ PARA★DO、渋ラジ、文化放送「斉藤一美ニュースワイドSAKIDORI！」
- ・大学スポーツ新聞(早稲田スポーツ)

h. その他啓発企画「GO Journal プロジェクト」

写真家の蛭川実花氏が監修し、パラアスリート等の写真やインタビュー・対談記事を掲載するフリーグラフィックマガジン「GO Journal」の発行、多言語による WEB・SNS 展開、およびイベントを実施。

■グラフィックマガジン発行

2号(5月 | 20,000部)水泳・一ノ瀬メイ選手・山田拓朗選手、車いすフェンシング・安直樹選手×太田雄貴氏対談、ダンサー・大前光一氏

3号(3月 | 25,000部【ブラインド特集】柔道・藤本聡選手、ゴールボール・浦田理恵選手、ブラインドサッカー・川村 怜選手×中山雅史氏対談、ピアニスト・辻井伸行氏

(配布先)

- ・全国国公立高等学校への配布(約 5,000 校)
- ・全国の国公立図書館 1,000 館、東京都現代美術館等の美術館(閲覧用として)
- ・全国の蔦谷書店(銀座、代官山、梅田、京都岡崎等のフラッグショップ)、LOFT(3号より)、内閣官房ホストシティ、イベント等での配布等

■多言語 WEB 展開

日英 2 か国語の GO Journal 公式サイトを運営

<https://www.parasapo.tokyo/gojournal/>

さらに多言語発信サイト「nippon.com」への転載にて中国語、フランス語、スペイン語、アラビア語、ロシア語で情報発信

■イベント、企画展

・2号発刊記念イベント | パラアスリートトークショー (Yahoo! LODGE)

登壇:一ノ瀬選手、山田選手

来場:100名

・写真企画展

2月～4月 日本財団「スポーツの力」写真展(渋谷区役所)内に1～3号の写真展示

2. 「パラ駅伝 in TOKYO」の開催

障がいのあるなしに関わらず、誰もがスポーツを楽しみ、お互いの理解を深めることを目的に、障がいランナーと健常ランナーをひとつのチームとした駅伝大会「パラ駅伝 in TOKYO 2019」を下記の通り開催した。協賛企業は昨年に引き続き、ゴールドパートナー1社、オフィシャルパートナー5社の合計6社を獲得することができた。

第4回目となる本大会は、全国16都道府県から17チーム、海外からはカンボジアチーム、パラサポスペシャルサポーター草薙剛さんと動画クリエイターたちとのコラボチーム「チーム i enjoy!」と今回で3回連続出場となる「チーム よしもと」も参加し、過去最多の20チーム180名のランナーが出場した。

本大会から観客参加型のフラッグベアラー企画や優勝チーム投票企画なども取り入れ、17,500人が来場した観客席は大いに盛り上がりランナーへ大きな声援が送られた。

競技場横の中央広場では、パラサポのOEN一応援ブース、協賛企業によるブース出展、出場チームの都道府県にゆかりのある食品などの販売を行うサイドイベント「パラ駅伝 in TOKYO 2019 ご当地物産祭」を行い、大変な賑わいを見せた。

今回のすべてのイベントを支えたボランティアとして、一般ボランティア、学生ボランティア、パートナー企業ボランティア、視覚障がい者や聴覚障がい者を含む約700人が参加。観客席には車いす席とアクセシブルシートに加え、聴覚障がい対応席を設け、手話パフォーマーによる情報保障も提供した。

<開催概要>

名称:パラ駅伝 in TOKYO 2019

開催日:2019年3月24日(日)

会場:駒沢オリンピック公園陸上競技場及びジョギングコース

主催:日本財団パラリンピックサポートセンター

協賛:ゴールドパートナー/株式会社 JTB

オフィシャルパートナー/アシックスジャパン株式会社、JXTG エネルギー株式会社、凸版印刷株式会社、日本航空株式会社、野村ホールディングス株式会社

後援:厚生労働省、スポーツ庁、東京都、世田谷区、日本障がい者スポーツ協会、東京都障害者スポーツ協会、東京都スポーツ文化事業団、東京都公園協会、日本パラ陸上競技連盟、日本知的障がい者陸上競技連盟、日本聴覚障害者陸上競技協会、日本ブラインドマラソン協会、日本車いすバスケットボール連盟、全国社会福祉協議会、日本身体障害者団体連合会、全日本ろうあ連盟、世田谷区スポーツ振興財団、笹川スポーツ財団、日本経済団体連合会、経済同友会、東京商工会議所、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会推進議員連盟、障がい者スポーツ・パラリンピック推進議員連盟、

ライオンズクラブ国際協会(330-A 地区)

協力:公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

運営協力:東京陸上競技協会

駅伝距離:1 区間(各区間共通 2.342km)×8 区間 合計約 18.736km

走者:第 1 区/視覚障がいランナー及び伴走者、第 2 区/聴覚障がいランナー、第 3 区/車いすランナー(女)、第 4 区/健常ランナー(男)、第 5 区/知的障がいランナー、第 6 区/肢体不自由ランナー(立位)、第 7 区/健常ランナー(女)、第 8 区/車いすランナー(男)

チーム:16 都道府県、カンボジアより 18 チーム(1 チーム 9 名(伴走者含)全 162 名)

北海道/1 チーム、岩手県/1 チーム、宮城県/1 チーム、福島県/1 チーム、茨城県/1 チーム、栃木県/1 チーム、群馬県/1 チーム、埼玉県/1 チーム、千葉県/1 チーム、東京都/2 チーム、神奈川県/1 チーム、長野県/1 チーム、静岡県/1 チーム、鳥取県/1 チーム、熊本県/1 チーム、大分県/1 チーム、カンボジア/1 チーム

※オープン参加チーム:「チーム i enjoy!」「チーム よしもと」

<大会結果>

優勝:ベリーグッドとちぎ、準優勝:ぐんまちゃんランナーズ、第 3 位:TEAM MIYAGI

応援ゲスト:稲垣吾郎、香取慎吾、キャイ〜ン、木下航志

「チーム i enjoy!」:草薨剛、Fischer's-フィッシャーズ、稲村亜美

「チームよしもと」:ペナルティ(ヒデ・ワッキー)、サバンナ八木、レイザーラモン HG、とにかく明るい安村、げんき〜ず(元気☆たつや、宇野けんたろう)、東口優希、木村真野

来場者数:17,500 名

ボランティア:700 名

3. 「パラフェス 2018」の開催

普段パラスポーツに関心の低い層やこれまでパラスポーツを見たことがないような人に対してもその魅力を知ってもらうことを目的に、著名ミュージシャン、パラアスリート、障がい者アーティスト、そしてオリンピックが登場、共演するライブイベントを開催した。パラアスリートによる試合形式でのパフォーマンス、パラスポーツやパラリンピックに関連する映像上映などを行い、パラスポーツの認知度を高めるとともに、アーティストとのコラボレーションにより、障がいの有無をこえた人間の可能性を共有し、インクルーシブな社会の実現に寄与することを目的とした。

今回の「パラフェス」では、昨年度までパラアスリートが登場しパフォーマンスやトークショーを行っていた演出部分において、ゲストにオリンピック(メダリスト)を迎え、【真剣勝負】と題したパラアスリート対オリンピックの試合形式のパフォーマンスを実施。オリンピックたちにパラアスリートと同じ状況を課すことにより(車いすフェンシングでは、オリンピックも車いすに座り競技。パラ卓球では、パラアスリートの障がいを反映、再現した特殊な卓球台を使

用)、パラアスリートの実力やパラスポーツならではのテクニックを観客に分かりやすく伝えた。

また、若者に人気のあるアーティストをキャスティングしたことで、これまであまりリーチできていなかった20代の若手層を引き込むことにも成功し、さらに過去最多の入場者数(6,000名)となった。

<開催概要>

名称:パラフェス2018

主催:日本財団パラリンピックサポートセンター

協賛:ゴールドパートナー/野村ホールディングス株式会社

オフィシャルパートナー/JXTG エネルギー株式会社、日本航空株式会社、三井不動産株式会社

後援:スポーツ庁、東京都、障がい者スポーツ・パラリンピック推進議員連盟、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会

日時:2018年11月23日(金・祝) 16:00~19:00(15:00開場)

開催場所:武蔵野の森総合スポーツプラザ メインアリーナ

出演者:

・パラアスリート:テコンドー/伊藤力、星野佑介、パラ卓球/岩渕幸洋、車いすフェンシング/加納慎太郎

・オリンピック:卓球/吉村真晴、フェンシング/三宅諒

・アーティスト:木下航志、Johnatha Bastos、酒井響希、May J.、秦基博、新しい地図

入場料:2020円

入場者数:約6,000人

4. パラスーツ体験型イベントの実施

パラスポーツの普及・発展へ繋げることを目的に、パラスポーツ体験型イベントを6件実施。

①東京おもちゃショー2018(主催:日本玩具協会)

4日間で160,190人が来場した玩具業界の総本山として重要な役割を担う東京おもちゃショー2018にて、パラスポーツ体験型イベントを実施し、パラサポのブースには4日間でのべ約6,000名が来場した。

<開催概要>

名称:i enjoy! パラスーツパーク(300㎡)

日時:2018年6月7日(木)~8日(金)/業界日、9日(土)~10日(日)/一般日(計4日間)

会場:東京ビッグサイト 西2ホール

協賛:日本航空株式会社

内容:車いすバスケットボール、ボッチャ、陸上競技用車いす(レーサー)、クイズラリー、スポ

ーツ能力発見協会、ゴールボールスマホアプリゲーム、マイパラ紹介、パラスポーツ動画放映、リオ・平昌パラリンピックトーチ展示、競技用車いす（テニス、ラグビー）展示

②パラスポーツフェスタ in 軽井沢(主催:パラスポーツフェスタ in 軽井沢実行委員会)

長野県内で2027年に開催される全国障がい者スポーツ大会に向けて県民のスポーツと障がいに対する理解と促進を図るため、長野県からの委託事業としてパラスポーツ体験イベントを実施。232人が来場した。

<開催概要>

名称:パラスポーツフェスタ in 軽井沢

日時:2018年6月17日(日)

会場:軽井沢風越公園総合体育館

内容:【AM】あすチャレ！運動会

【PM】信州アスリートトークショー、(体験)車いすバスケットボール、車いすカーリング、ボッチャ、シッティングバレーボール、ブラインドサッカー

※パラサポは協定パートナー、実行委員会のメンバーとして運営に協力

③ツーリズム EXPO ジャパン 2018(主催:日本旅行業協会)

4日間で207,000人が来場した世界最大級の旅の祭典であるツーリズム EXPO ジャパン 2018にて、パラスポーツ体験型イベントを実施し、パラサポのブースには4日間でのべ5,000人が来場した。

<開催概要>

名称:i enjoy! パラスポーツパーク(375㎡)

日時:2018年9月20日(木)、21(金)、22(土)、23日(日) 計4日間

会場:東京ビッグサイト 東6ホール

内容:車いすバスケットボール、ウィルチェアラグビー、ボッチャ、パラ陸上(レーサー)、パラ・パワーリフティング、紙芝居ショー、パラスポーツ関連動画放映、フォトブース /OEN2020コーナー、Tokyo Tokyo Old meets New パネル展示

※東京観光財団「Tokyo Tokyo」の助成金を活用

④NSTまつり(主催:NST新潟総合テレビ)

新潟総合テレビの50周年イベント企画として、新しい地図の3人を招き、特番やトーク&ライブを行い、パラサポも企画構成に協力した。NSTまつり内では、i enjoy! パラスポーツパークや、レゴ壁画の展示、OENフラッグブースを出展し、2日間で合計のべ9,000人が来場した。

<開催概要>

名称:NSTまつり2018 i enjoy! パラスポーツパーク

日時:2018年9月29日(土)、30(日)

会場:新潟市中央区万代シティ、NST 本社

内容:車いすバスケットボール、ボッチャ、陸上競技用車いす(レーサー)、パラ・パワーリフティング、レゴ壁画、OEN フラッグコーナー

⑤i enjoy! パラスポーツパーク in 萩市(主催:山口県萩市)

あすチャレ! School 会期中のタイミングで i enjoy! パラスポーツパーク/あすチャレ! 運動会を開催。萩市内のパラリンピックへの興味関心を一気に高め、東京 2020 へ向けた機運を醸成し、萩市における共生社会の実現へ向けたイベントと位置づけ、実施した。

<開催概要>

名称:i enjoy! パラスポーツパーク

日時:2018年10月14日(日)

会場:山口県萩市民体育館

共催:日本財団パラリンピックサポートセンター

内容:【AM】あすチャレ! 運動会

【PM】トークセッション、(体験)車いす卓球、車いすバスケットボール、ボッチャ、パラ陸上(レーサー)、OEN フラッグブース

⑥ボートレース浜名湖・日本財団会長杯スペシャル企画

<開催概要>

名称:パラスポーツ体験 in BOATRACE 浜名湖

日時:2019年3月9日(土)、3月10日(日)

会場:BOATRACE 浜名湖 1F アトリウム

主催:浜名湖競艇事業団(運営協力:日本財団パラリンピックサポートセンター)

内容:車いすバスケットボール、ボッチャ、パラ陸上(レーサー)

5. パラリンピック教育の実施(あすチャレ! スクール)

全国の小中高等学校の児童生徒を対象としたパラスポーツ体験型授業「あすチャレ! スクール」プログラムを41都道府県296校(小学校187校、中学校87校、高等学校16校、その他6団体)46,253人に実施した。2016年度から事業スタートし、今年度で47都道府県での実施を達成した。累計675校、107,569人(2019年3月末時点)。

当プログラムはパラアスリートとの交流やパラスポーツ体験を通じて、参加者に対して「人間の多様性」や「障がい」等に対する気づきや学びを提供することを目的とする。車いすバスケットボール、ゴールボール、車いす陸上の3種類の体験プログラムを講師4名体制で実施。初開催となる自治体では、多くのメディアが取材に訪れテレビ、新聞等で広く報道された。2017年度から継続して日本航空株式会社が協賛し実施している。

6. パラリンピック教育事業開発(I'mPOSSIBLE 日本版)

日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会とともに「I'mPOSSIBLE」日本版事務局を構成し、パラリンピック教育教材「I'mPOSSIBLE」の国際版を元に、「I'mPOSSIBLE 日本版」の制作及び全国の小中高特別支援学校への配布、教員向けの研修等を行った。

まず 2018 年 6 月に前年度制作した小学生版第 2 弾、中学校・高校生版第 1 弾を全国の小中高特別支援学校(計約 36,000 校)、都道府県・市町村教育委員会に配布。続いて、小学生版第 3 弾、中学校・高校生版第 2 弾の制作を行った。小学生版第 3 弾は、5 授業分(内、2 授業分は Web のみの公開)、中学校・高校生版第 2 弾は 8 授業分を制作した。配布は 2019 年 5 月を予定。

また教員等向けに教材の魅力や使い方、メリット等を教育委員会等が催す研修の場で伝えた。2018 年度は計 49 回行い、5,000 人以上が参加した。

【2018 年度制作教材】

<小学生版>

1-5「パラリンピアンが学校に来るとしたら」、2-6「ブレードランナーの活やくからみえること」
2-7「パラバトミントンをやってみよう!」、2-8「パラリンピアンを応援しよう!」、東京 2020 スペシャル「東京 2020 パラリンピックを楽しもう!」

<中学生・高校生版>

1-2「『勇気』『強い意志』『インスピレーション』について考えてみよう!(香西 宏昭選手編)」、1-3「『勇気』『強い意志』『インスピレーション』について考えてみよう!(村岡桃佳選手編)」、1-4「『公平』について考えてみよう!」、2-4「ボッチャをやってみよう!」、2-5「ガイドランナーを体験しよう!」、2-6「ブレードランナーの活やくからみえること」、2-7「パラバトミントンをやってみよう!」、東京 2020 スペシャル「東京 2020 パラリンピックを楽しもう!」

7. 法人向けパラスポーツ体験プログラムの実施(あすチャレ! 運動会)

企業や自治体、学校を対象とする、パラスポーツを導入したオリジナルの運動会プログラム「あすチャレ! 運動会」を 2017 年 4 月に開始。2018 年度は 38 回/3,850 人が参加した。

<事業概要>

名称:あすチャレ! 運動会

協賛:株式会社 JTB

運営事務局:株式会社セレスポ

競技:あすチャレ! アイスブレイク、ゴールボール(ソフト)、シッティングバレーボール(ソフト)、ボッチャ、車いすポートボール、車いすリレー

内容:上記種目の 3 競技以上を入れることを条件に、パラスポーツ用具を無償提供し、運動会を実施。

【パラサポ主催イベント(8回/1,508人)】

①全国横断パラスポーツ運動会(7回/93チーム/1,371人)

<開催概要>

事業名:平成30年度スポーツ庁委託事業「全国横断パラスポーツ運動会」

後援:各実施地域の都道府県、市区町村

実施地域・スケジュール:全国7ブロック(全ブロック10:00~17:00)

- 1.東北ブロック:12/9(日)@東北福祉大学(宮城県仙台市)
- 2.北海道ブロック:12/23(日)@北海道科学大学(北海道札幌市)
- 3.中四国ブロック:1/12(土)@廿日市市スポーツセンターセンチュリー(広島県廿日市市)
- 4.近畿ブロック:1/14(月)@関西学院大学(兵庫県西宮市)
- 5.関東ブロック:1/20(日)@日本財団パラアリーナ(東京都品川区)
- 6.中部ブロック:1/26(土)@西尾市総合体育館(愛知県西尾市)
- 7.九州ブロック:2/9(土)@九州大学(福岡県福岡市)

参加チーム:各ブロックエリア内の企業・大学・自治体・団体

参加費:無料

実施競技:ボッチャ、シッティングバレー(ソフト)、ゴールボール、車いすポートボール、車いすリレー

②あすチャレ！運動会日本一決定戦(8チーム/137名)

全国横断パラスポーツ運動会の各ブロック優勝チーム7チームと、アスリートなどで構成されたスペシャルチームの計8チームで日本一を決定する大会を開催した。

<開催概要>

日時:2019年3月17日(日)

結果/参加チーム(各ブロック優勝チーム)

優勝:北海道ブロック代表/一般財団法人さっぽろ健康スポーツ財団

2位:近畿ブロック代表/大阪体育大学

3位:東北ブロック代表/東北福祉大学

4位:九州ブロック代表/久留米大学

5位:中部ブロック代表/株式会社デンソー

6位:中四国ブロック代表/マツダ株式会社

7位:スペシャルチーム/チャレンジャーズ(アスリート・動画クリエイター混合チーム)

8位:関東ブロック代表/JXTG エネルギー株式会社

会場:日本財団パラアリーナ

【あすチャレ！運動会(大規模)】(6件/1,170人)

・経済同友会主催/パラスポーツ運動会

<開催概要>

日時:2019年2月13日(水)

参加数:18社(334人)

会場:武蔵野の森総合スポーツプラザ

<その他個別案件>

- 2018/5/27:全トヨタ労働組合/154人@茅ヶ崎総合体育館
- 2018/6/30:西尾レントオール/181人@日本財団パラアリーナ
- 2018/9/26:(株)JR東日本パーソネルサービス/175人@JR東日本総合研修センター
- 2018/9/27:(株)JR東日本パーソネルサービス/175人@JR東日本総合研修センター
- 2018/12/1:三沢市/151人@三沢市国際交流スポーツセンター

【パラスポーツ体験会(小規模)】(24回/1,172人)

- 2018/4/21:スマサポ/35人@FUTSAL POINT 両国
- 2018/6/17:長野県/40人@軽井沢風越公園体育館
- 2018/6/20:藤岡南中学校/96人@日本財団パラアリーナ
- 2018/6/23:東洋大学/12人@東洋大学白山キャンパス
- 2018/7/14:佐久市スポーツ推進委員会/41人@佐久市総合体育館
- 2018/7/14:佐久市スポーツ推進委員会/50人@佐久市総合体育館
- 2018/7/18:NIKE ジャパン/55人@リソル生命の森
- 2018/7/31:ジョンソン・エンド・ジョンソン/27人@日本財団パラアリーナ
- 2018/8/2:日本私学小学校連盟/80人@日本女子大豊明小学校
- 2018/8/2:練馬区①/40人@平和台体育館
- 2018/8/4:練馬区②/40人@大泉特別支援学校体育館
- 2018/8/5:練馬区③/40人@中村南スポーツ交流センター
- 2018/8/5:練馬区④/40人@上石神井体育館
- 2018/10/14:山口県萩市/31人@萩市民体育館
- 2018/10/27:茨城県鹿嶋市/18人@カシマスポーツセンター
- 2018/11/10:エッサム(JTB新宿)/67人@日本財団パラアリーナ
- 2018/11/25:北海道庁(せたな町)/81人@せたな町民体育館
- 2018/12/4:海田西中学校(JTB広島)/70人@日本財団パラアリーナ
- 2019/1/19:東京都港区/19人@港区総合スポーツセンター
- 2019/1/27:京都府長岡京市/30人@西山公園体育館
- 2019/2/2:東京都品川区/90人@スクエア荏原
- 2019/2/18:EMPOWER(東京大学 UNiTe)/20人@日本財団パラアリーナ
- 2019/3/19:福井県/100人@永平寺中学校

・2019/3/21:香川県土庄町/50人@土庄町総合会館

【4】パラリンピックボランティアの推進

1. パラリンピックボランティアの育成推進

2019年2月からスタートした「東京2020大会ボランティアオリエンテーション」にて、パラリンピック競技のトリックアート(フォトコーナー)やOENフラッグブースを設置し、大会ボランティア、都市ボランティアに対して、パラリンピックに対する機運を高める取り組みを行った(2019年度も継続予定)。

2. 障がい者コミュニケーションセミナーの実施(あすチャレ! Academy、あすチャレ! ジュニアアカデミー)

障がいのある当事者講師よりパラスポーツやパラリンピックを題材に障がい者とのコミュニケーション方法について学ぶダイバーシティセミナー(有償。対象は18歳以上)を展開。レクチャーや体験、グループワークなどの学びの機会を通じて、共生社会に必要な障がい者と健常者のコミュニケーション方法を提供した。2016年11月よりスタートし、2018年度は東京・大阪で一般開催を合計19回開催、企業・自治体等向けに団体開催として112回開催した。通常の100分版に加えて企業の希望に応じた形でパラリンピックと共生社会を伝えるセミナー「あすチャレ! Academy 特別版」を開始、また今年度後半から、小学校4年生から中学校3年生までを対象にした障がい者講師から障がいについて楽しく学べる体験型授業「あすチャレ! ジュニアアカデミー」の事業を開始し、今年度は18校で実施した。すべてのプログラム合計で7,503名が受講。

<事業概要>

①名称:あすチャレ! Academy

主催:日本財団パラリンピックサポートセンター

協賛:日本電気株式会社

内容:全120分(うち講義時間100分)のワークショッププログラム。講師による講話、障がい者へのサポート体験、受講者同士のグループワークを通じて、障がい者とのコミュニケーション方法やサポート方法を提供。

②名称:あすチャレ! Academy 特別版

主催:日本財団パラリンピックサポートセンター

協賛:日本電気株式会社

内容:全60分。パラリンピック・パラスポーツがどのように共生社会と結びつくのか、企業の取り組みや、企業の要望を含んだセミナーを提供。

③名称:あすチャレ! ジュニアアカデミー

主催:日本財団パラリンピックサポートセンター

協賛:日本電気株式会社

内容:全90分の共生社会を考える体験型プログラム。パラアスリートを中心とした講師より、

それぞれの講師が大切にしていること、目標など経験を元にした講話やパラリンピック・パラスポーツの魅力を聴きながら、障がいの疑似体験を行うことで共生社会の大切さを身につけるセミナーを提供。

<実施概要>

講師:10名(視覚障がい3名、聴覚障がい1名、低身長1名、肢体不自由5名)

ジュニアアカデミー講師:5名(肢体不自由2名、視覚障害3名)

育成中:2名(聴覚障害1名、肢体不自由1名)

セミナー開催数:130回 受講者数:7,503名

(内訳)

一般(個人)開催:19回 279名(東京・大阪)

団体開催:130回(企業、地方自治体、大学、ジュニアアカデミー)/7,224名

【5】パラリンピックの学術研究

1. 調査研究活動

a. パラリンピックにおける格差と乖離に関する調査研究

様々な視点から、パラリンピックにおける格差と乖離に関する基礎調査を行った。

b. パラリンピック競技団体運営モデル構築事業に関する調査

パラサポ入居競技団体を対象とし、競技団体の業務量調査、競技団体の業務に関するヒアリング調査を行った。

c. 途上国の障がい者スポーツの現況および国際支援の可能性に関する調査研究

- ・各国 NPC を訪問し、障がい者スポーツ政策の変化に関してヒアリングを実施した。
- ・日本における障がい者スポーツに関する国際支援事業の実績をまとめた。
- ・アジアパラ競技大会の競技会場を視察し、関係者にヒアリング調査を行った。
- ・アジアパラ競技大会出場国のメダル獲得等の状況を調査した。

d. 平昌パラリンピック大会の新聞報道に関する調査

平昌パラリンピック大会に付随して報道される試合結果以外のトピックを整理した。

e. 平昌パラリンピック大会のテレビ放送に関する調査

NHK 放送文化研究所との共同調査結果の報告と、それに基づいた考察を行った。

f. 平昌パラリンピック大会直接観戦者に関する調査

平昌パラリンピック大会における会場での直接観戦者を対象として質問紙調査を行った。

g. クラス分けに関する研究

パラリンピックのクラス分けについて、公平性の観点から、カテゴリー分け等も含めて、リオパラ大会実施競技ごとの状況を整理した。

h. パラリンピック教育の実施状況に関する研究

「あすチャレ！ School」の実施校を訪問し、実施状況の調査、教員・児童生徒へのヒアリングを実施した。

- i. アメリカの傷痍軍人とスポーツに関する調査研究
米国のパラリンピック出場選手に傷痍軍人が増加した背景を明らかにし、パラリンピックやアダプティブスポーツ全体にどのような影響を与えているかについて考察を加えた。
- j. 米国オリンピック協会 (USOC) に関する調査
ヒアリング調査を行い、資料収集および先行研究などの基礎調査を行った。
- k. パラリンピックと技術開発との関連性の研究
義肢装具等の開発者に対するインタビュー調査を行った。

2. 普及啓発活動

- a. 紀要を発行した。
 - ・第 10 号(2018 年 9 月発行)
 - ・第 11 号(2019 年 3 月発行)
- b. 大学との共催で国際シンポジウムを開催し、延べ約 160 名が参加した。
 - ・日本財団パラリンピックサポートセンター・日本福祉大学共催シンポジウム「パラリンピックとジェンダー」(約 52 名参加)
 - ・日本財団パラリンピックサポートセンター・筑波大学共催シンポジウム「パラリンピック教育がもたらす共生社会—障がい者理解を目指して」(62 名参加)
 - ・日本財団パラリンピックサポートセンター・JST ERATO 稲見自在化身体プロジェクト共催シンポジウム「パラスポーツとともに歩む先端技術」(46 名参加)
- c. ワークショップを開催し、延べ約 320 名が参加した。
 - ・第 29 回「平昌パラリンピック大会報告および 2020 年東京大会に向けての提言」(2018 年 4 月 12 日)
 - ・第 30 回「パラリンピックと放送に関する研究」(2018 年 7 月 31 日)
 - ・第 31 回「インターネットとソーシャルメディアにより拡大するパラリンピック—インスピレーション、変革、そして『史上最高の』東京大会—」(2018 年 10 月 25 日)
 - ・第 32 回「ジャカルタから東京へ—アジアパラ競技大会報告及び 2020 東京パラリンピック競技大会に向けての提言」(2019 年 2 月 19 日)
- d. 内外情勢調査会と協力し地方講演会を開催した。
沼津において内外情勢調査会と共催で企画実施した。
- e. 小倉理事長のインタビュー記事が新聞・雑誌等に掲載された。
 - ・「天皇皇后陛下と障がい者スポーツ」、共同通信社(2018 年 12 月 18 日取材)、掲載は、西日本新聞(12 月 23 日)、北日本新聞(12 月 27 日)、東奥日報・信濃毎日(12 月 28 日)など
 - ・「五輪招致を振り返る」、毎日新聞(2019 年 1 月 31 日)

- ・「2020年東京五輪の内幕③ 開催決定の最終局面—日本はどう動いたか」、『潮』、潮出版社、2018年11月号

【6】パラスポーツの国際支援

国際パラリンピック委員会 (IPC)、Agitos 財団と協力して、2016年、2017年に引き続き IPC 公認教材 I'mPOSSIBLE 国際版制作のための支援を行った。今年度は中高生版を開発し英語だけでなく西語、仏語に翻訳、また冬季競技を中心にした教材もすでに開発済み、各国での活用に向けての普及に取り組んだ。

また、カザフスタンとシンガポールで教員研修を実施した。

さらに、Agitos 財団を通じて各国パラリンピック委員会でのパラリンピック教育の推進事業に対して助成を行い、今年度は、カザフスタン、マラウイ、韓国において事業が行われた。

2018 年度事業報告 附属明細書

2018 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2019 年 5 月

公益財団法人
日本財団パラリンピックサポートセンター